



## 湾岸・アラビア半島地域ニュース

### イラク：イラク石油ガス・エキスポ

(12月7日付現地各紙)

1. イラク商工会議所が12月5日～7日にバグダッド国際空港に隣接する国際会議場で主催した「イラク石油ガス・エキスポ」展が成功裏に閉幕した。エクソン、トタル、BPといったメジャーは参加を見合わせたもの、米国のコノコフィリップス、ロシアのルクオイルを含めて40社がブースを設置し、(日本からは、三菱商事、日揮、新日石開発、INPEX、JOGMECの4社・1団体が出展)、連日多くの企業・政府関係者でにぎわった。
2. イラク国内において外国企業を誘致するこの種の展示会は1990年の経済制裁以降初めての試みであり、初日の開会式で冒頭スピーチを行ったシャハリスターニ石油大臣は「経済制裁以降、イラクにおいて新規の油田開発は行われてはならず、開発のためには外国企業からの投資・技術協力が必要であり、イラク政府はそのための労力は惜しまない」と述べた。
3. 本展示会にブースを設置したある日本企業の副社長は、「イラクの治安状況が改善しているということは実感しており、日本企業がイラクに進出し、イラクのエネルギー分野の発展のために手を差し伸べる時期にきている」と語った。またロシアのガスプロム、インドネシアのペトロミナといったフセイン政権時代につながりのあった企業も現政権との協力関係の再構築を目指して本展示会に参加している。
4. イラク政府は石油輸出量を2018年までに現在の約3倍に相当する600万BPDまで増産させることを計画している。